

Title	「文化」の解読（20）：文化と記憶 はしがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト．2019
Issue Date	2020-07-31
oa:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77014
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

はしがき

ここに刊行するのは、「言語文化共同研究プロジェクト 2019」の一環として、「〈文化〉の解読 (20) ー文化と記憶ー」という名称の下、合計 3 名によって行なわれた共同研究の成果報告書である。メンバーのうち、1 名は大学院言語文化研究科に所属する教員、1 名はマルチリンガルセンターに所属する教員であり、1 名は大学院言語文化研究科博士後期課程に在籍している。

「〈文化〉の解読」をメインテーマとする共同研究プロジェクトは 2000 年に発足した。過去のサブテーマは以下のとおりである。「文化の意味作用について」(2000 年度)、「〈文化空間〉の政治学」(2001 年度)、「文化の政治性／政治の文化性」(2002 年度)、「文化批判の機能をめぐって」(2003 年度)、「文化生産の諸相」(2004 年度)、「文化受容のダイナミクス」(2005 年度)、「システムとしての文化」(2006 年度)、「想像力としての文化」(2007 年度)、「文化とアイデンティティ」(2008 年度)、「文化と身体」(2009 年度)、「文化とトポス」(2010 年度)、「文化と歴史／物語」(2011 年度)、「文化とコミュニティ」(2012 年度)、「文化と公共性」(2013 年度)、「文化と翻訳」(2014 年度)、「文化と権力」(2015 年度)、「移動と衝突の文化現象」(2016 年度)、「神話的なものとその解体」(2017 年度)、「文化とメディア」(2018 年度)。20 年目となる 2019 年度は、「文化と記憶」というテーマを掲げて、本プロジェクトを遂行した。

収録した 3 本の論文の内容は、以下のとおりである。アウマン論文は、初期道家のテキストに動物譚が頻出する理由を探り、その文学的機能と哲学的問題を論じている。徐論文は、谷崎潤一郎の原作小説と比較しながら、増村保造の映画『卍』におけるレズビアン表象の特徴を分析している。津田論文は、村上春樹の長編小説『騎士団長殺し』の登場人物である騎士団長と顔ながの性格をプロットとともに分析し、彼らが具現するアイデアとメタファーの意味を人間の無意識との関連において考察している。

本プロジェクトも満 20 歳を迎えた。これからも一步一步よい歳を重ねていきたい。

2020 年 6 月

執筆者一同